

修学旅行通信

第4.1号

沖縄コース

めんぞ〜れ〜

国際通り(4日目)

4	12/12 (木)	ホテル === 道の駅かでな(見学) === 首里城公園(入場) === 国際通り(散策/自由昼食) ===
		9:30 10:00~10:30 11:10~12:10 12:40~15:40
		ANA308
		== 那覇空港(買い物) ==> 中部国際空港
		16:00 17:40 19:50

道の駅かでな

「道の駅かでな」に来て誰もが驚くのが4F 展望所からの眺め。大きく迫り出した展望所からは、隣接する嘉手納空軍基地が一望でき、戦闘機が離着陸する様子を間近で見ることができます。展望所には飛行する各機体の説明パネルがあるほか、騒音指数の表示板も設置されていて、嘉手納町が基地とともにある町だということを感じられるスポットでもあります。



首里城公園

沖縄では平安時代(10世紀頃)までの長い間、狩猟採集の生活が続いていました。12世紀に農耕社会となり、15世紀に入って当時の三勢力が統一され(三山統一)、琉球王国が誕生しました。このときから、琉球は海洋国家として発展を遂げていきます。

琉球王国は中国をはじめ、東アジアや東南アジア、朝鮮、日本などの周辺諸国と積極的に交易を行い、「大交易時代」とよばれる一時代を築きました。その後、琉球は1609年の薩摩藩の武力侵攻により、薩摩の支配下に置かれることとなりますが、諸外国との交易は続き、江戸時代の日本や中国の文化を吸収しながら、独自の琉球文化を形成していきます。

しかし1879年、明治維新の余波を受けて琉球王国は幕を閉じ、沖縄県となりました。その後、第二次世界大戦では苛烈な沖縄戦で多くの県民が命を落とし、終戦後も1972年まで米軍の統治下に置かれるなど、沖縄は複雑な歴史を歩んできたのです。



首里城火災

2019年10月31日に発生した火災では、正殿や南殿、北殿など、全部で9つの施設が焼失しました。2026年度の正殿の復元完成を目指し、現在進められている復元工事は、「見せる復興」をテーマとして、園内では工事作業を目の前で見られる見学デッキが設けられているほか、火災被害を受けた品々が各所に展示されています。



イオンでは今月末まで「首里城支援募金」が行われています。最近が目立たない場所に募金箱が置かれているため、目にすることが少なくなりましたが、大体は「サービスセンター」に置かれていますので、修学旅行へ行く前に少しずつ意識を向けることも楽しみの一つだと思います。 ↓イオンのチラシより

守礼門

2000年に沖縄で行われた「G7沖縄サミット(写真左)」また2000円札にも描かれている「守礼門(写真右下)」とどちらも舞台となっているのが首里城とその周辺です。



2019年10月の火災により、正殿などの中心的な建物や文化財が焼失した首里城(沖縄県那覇市)の再建にお力添えをいただくため、全国のイオンのグループ店舗にて支援募金を実施いたします。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。



イオンアークスクラブ首里城復興支援ポスターコンクール2024
最優秀賞 イオンアークスクラブ宮小牧 藤崎さん(小6)

募金受付 2024年11月30日まで



世界遺産

首里城公園には「世界遺産」に登録されているものが3点あります。

- ① 首里城正殿遺構
- ② 玉陵(たまうどろん)
- ③ 園比屋武御嶽石門(そのひゃんうたきいしも)



左写真は③です。

担当
E2A 担任
丹羽 博之